

「キリストの弟子の条件と約束」

③感謝の道

ルカ 17: 11-19

■ リーバイ・ストラウス

日本でも人気のジーンズのブランドの創設者です。当時はゴールドラッシュの時代で、多くの奴隷たちのひとりとして、ユダヤ人のリーバイ・ストラウス自身も金を掘る作業をしていました。石と土を洗いながらの作業で、服もぐちゃぐちゃになりながらの大変な作業でした。彼は、同労者達の生活も服装も人生も苦しそうなを見て、丈夫で作業がしやすい服を作ってあげたいと願い、ジーパン作りしました。それが、「リーバイス」です。同労者は奴隷から抜け出すことをひたすら願い、ほんのわずかしか取れない一粒の金を探し当てる為、命をかけて血眼になり相手を蹴落としながらでも探しました。はたして彼らは、一粒の金を見つけたからと言って幸せになったのでしょうか？リーバイスはその中で別の目線を持ったのです。私達は多くのものを投資してまで、獲得しなくても良いような価値の無いものを探していませんか？ニュースや私たちの周りには沢山の嘘の情報があります。嘘だと思いつつも90%の人が信じてしまいます。同じように心の中にも嘘の情報が流されます。あなたは必要ない、あの人はあなたの事を…様々な嘘の情報が支配しています。それを聞いた時、私達は神様に聞き、御言葉に照らし合わせ、正しいかどうか判断し、決断する必要があります。

人それぞれで正しさは違います。正しさは神様だけが「愛」の正義を持っています。大多数の本当のような嘘の情報に流されるのでは無く、いつも神様から聴く事が大切です。

■ ①つまずきに対してと赦し (ルカ 17: 1-4)

□つまずき＝スキヤングロン、スキヤングルの原型…罠にかける、すなわちキリストから遠ざける事を意味しています。私達が変わろうとする時、疑い・憎しみ・批判・失望もたらすものが罠です。聞かなくて良いこと、言わなくて良い事、見なくて良いものを、目の当たりにした時、これらの罠にかからない為には、祈りが大切です。イエス・キリストは落ち込んでいたペテロに対して、「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈りました。」と言われました。なぜならその祈りによって天の万軍の軍隊があなたを守るからです。信じて進む時に、私達の考えも及ばないような宝が備えられていることを知るのです。

□つまずきを与える者は忌まわしいものである。人に良い影響を与えない、言葉・態度は罠です。相手につまずきを与えることとなります。金銭や、名誉、または自分の思いが、ならないことに対して、起こる問題です。パリサイ人達はいつもこの罠にかかり、してはならないことをしてまでも自分の思いを叶えようとしてしまう弱さがありました。

■ ②つまずくな (ルカ 17: 5-11)

□信仰を増して下さい。つまずいてしまう事に対して、弟子たちは「信仰を増して下さい。」と言いました。イエス様は、「もし、あなたがたに、からし種ほどの信仰があったなら…」と言われました。

□からし種の信仰とは
一つ目は私達を赦さない奴に対して、赦せない感情があるけど赦すことです。二つ目は、感謝することです。

□なぜ感謝なのか？ (マタイ 8: 8-11)
「あなたの手か足の一つが… (8: 8-9)」聞く事は大きな罪です。なぜなら、聞くやと嘘だろうと本当だろうと影響を受けるからです。

モーセを批判した留異国人がいました。しかしそれを聞いたユダヤ人も丸ごと石打ちに合わせるという厳しい罰が与えられました。私達は、聞き、解決することを導かれたのなら、まず「赦し・愛しなさい」と言われています。そこには、祈りが大切です。しかし、それによって自分が罠にかかりつまずくなら聞いてはいけません。もし目がつまずかせるなら (18:9) …痛ましいニュースや他人の嫌な部分が見えるようなものを見て、心の中に裁きが出て来る時に、私達がしないといけないのは、その感情を十字架に委ねることです。そして問題が解決するように自分は何をすべきか神様に祈ることです。多くの場合は裁いて終わります。

しかしその裁いた相手の名前には、自分の名前を入れないといけません。雨は絶えず降っています。ノアの箱舟の時、雨は降り続けました。人々の罪が増大して神様のところまで届いたので神様は大雨を降らせました。箱舟・教会＝キリストです。雨は、私達が犯した一粒一粒の罪です。それが濁流となり、神の造った被造物を押し流してしまいました。それは世界にとって非常に危険な出来ことでした。そして今日、そのひとつが戦争であり、地球が荒れ果てている事もそのひとつです。私達はそんな中でどうするべきでしょうか？一粒の雨が自分であったことを知らなくてはいけません。ですから、ノアの箱舟の洪水をみて、「神は何であんな目にあわせるんだ。」ではなく、私の罪がこのようなことになったことを知らなくてはいけません。そうしないと、世の中の罪は一生私達の周りでまわりついで変わる事はありません。

あなたの一番近くにある罪は、自分自身の罪だからです。ですから、周りに罪がある時にそれを取除くのではなく、見えなくするように言われているので

す。耳が聞いてつまずくならそれをどこかにやしてしまえと言われたのです。《そのとき、多くの人がつまずき、また互いに裏切り、憎しみ合うであろう》(マタイ 24: 10) これから、益々このようなことが起きていくでしょう。教会も、憎しみと裏切りと葛藤で戦ってきた歴史があります。愛を求める環境であるはずの教会でさえ、本当の愛から脱線してしまうことがあります。そんな時、私達は最後まで耐え忍び神様の前に祈るだけです。諦めずに祈らなければなりません。

■ ③感謝の道を (ルカ 17: 11-15)

イエス様は、サマリヤとガリラヤの境を通られました (17:11)。当時サマリヤは混血の地で教にも入れられることが無い地で、ガリラヤ人はサマリヤ人とは付き合いませんでした。イエス様は、エルサレムが建つ神殿の場所では無く、わざわざガリラヤとナザレ、その罪と罪の狭間を通られました。そこには、10人ツァラトに冒された人々がいました。《17: 13 「イエス様どうぞあわれんで下さい。」と言った。》《17:14 イエスはこれを見て言われた。「行きなさい。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中できよめられた。》このように10人癒され、帰ってきたのはたった1人のサマリヤ人でした。帰ってこなかった残りの9人はユダヤ人でした。

当時、ユダヤ人とサマリヤ人はお互い仲が良くなかったのが通常であれば一緒にはいませんが、病気の彼達は仲間から差別される者同士だったので一緒にいました。しかし癒されると9人のユダヤ人はイエス様の元へ帰ってほまきませんでした。しかし、たった一人のサマリヤ人は帰ってきました。なぜなら、病気になる仲間からも差別される中で自分の弱さに気づき心が飢え乾いていたからです。

彼にとって神様から離れていたことが、何よりの痛みだったことが推測されます。そして、イエス様の元に帰ってきたことは、何よりも彼が切に求めていることだったのではないのでしょうか。

□ノアの箱舟

箱舟に乗った動物たちは、神が集められました。これは教会の縮図です。まず神があなたを呼びます。それに応答したのが、ノアの家族です。馬鹿にした人もいました。神が呼んだ全てのもが箱舟に乗った時に、扉が閉まりました。神が閉めたのです。後悔して、助けしてほしいと言った民は、どれだけ叫んでも入る事ができませんでした。これは、後の時代の神様の計画と一緒です。イエス様のところに帰ってきた一人のサマリヤ人に《(17: 19) 「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。》」と言われました。サマリヤ人は神様の選びに応答し、赦されたことを知って感謝したのです。これからの種々の信仰です。残りの9人は目に見える病は治りましたが、その後はどうなったのでしょうか。聖書には書かれていないのです。感謝がある時私達は、イエス様の元に帰る事ができます。

しかし、目線が違えば感謝することができないのです。当時、ツァラトは罪の象徴でした。祭司のところで罪が許されたときにツァラトが癒されるという記事が多くありました。なので、罪が許される事と癒される事がセットで出てきているのです。しかし、罪を赦されることと、赦されたことを知った人が神に感謝することがセットで『からし種の信仰』が、大きな栄光を表すというストーリーになっているのです。罪に対する、赦しの感謝が起こった時に、鳥が住まう大きな大木になると言われているのです。

あなたは神様になっていないのでしょうか？

■ イエス様の弟子の条件

①赦されたことをいつも知っている事。【103:2 わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。】

②人を赦すこと。【18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません七度を七十倍するまでと言います。】

③感謝すること。【20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。】

(要約者:富岡 牧)

(2024年3月3日)